

正しく「痛み」を評価しましょう！ 痛みは我慢(自制)させないことが大前提です

「**疼痛自制内**」という表現は痛みの内容も、程度も、治療の必要性も伝えてくれません。
→患者さんの主観的な体験ではなく、医療者側の勝手な解釈で使用されている**間違った表現**です。

…ですが、機能評価前のカルテチェックでは「**疼痛自制内**」という表現が散見されています。



痛みは第5のバイタルサイン！

- 痛みには直ちに対応することが基本！
- 早期対応のポイント：痛みを定期的に尋ねる
痛みを呼吸・体温・脈拍・血圧に続く
第5のバイタルサインとして捉え、痛みを丁寧に正しく評価しましょう
- 痛みの最良の判定者は、私たち医療者ではなく、目の前の患者さんです！

痛みは主観的な体験

疼痛コントロールの第一歩は、患者さんが体験している痛みを理解すること

「疼痛自制内」は禁句にしましょう